

平成25年度 医薬分業指導者協議会

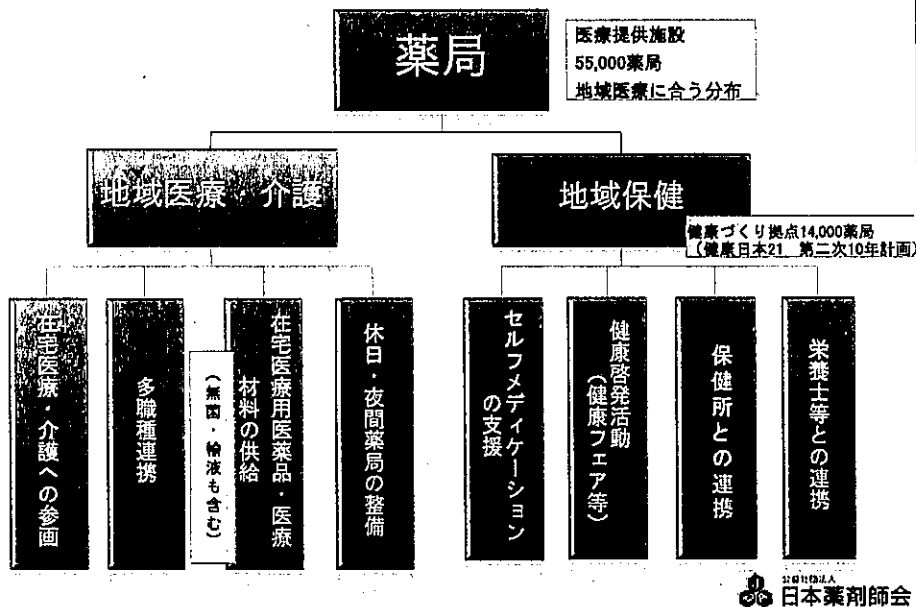
地域医療における「かかりつけ薬局」 の今後の在り方について —日本薬剤師会の取り組み—

平成25年3月20日(木)
於:厚生労働省 講堂

公益社団法人 日本薬剤師会
副会長 生出 泉太郎



社会保障制度改革への対応と 地域の医療資源としての薬局・薬剤師の活用

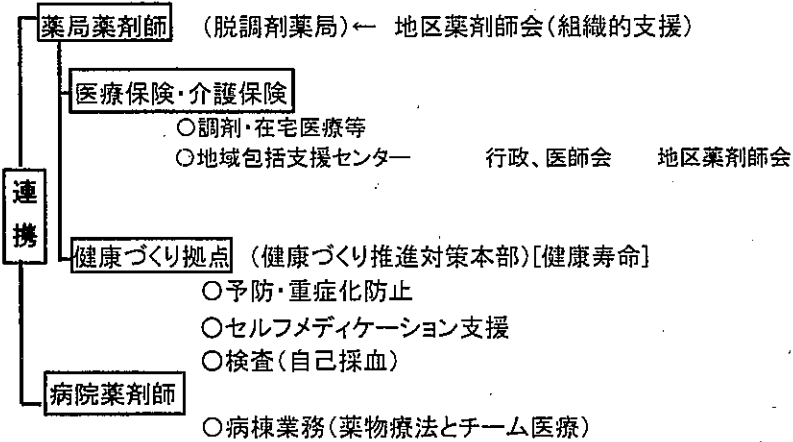


薬局薬剤師の将来

社会保障制度改革(2025年目途)

自助、共助、公助

病院完結型→地域完結型



セルフメディケーション (自分の健康は自分で守る) の推進

(薬剤師=アドバイス)

受診勧奨、OTC、健康食品 (食養生) 養生

(生活者による選択)

※キーワード

地区薬剤師会の活性化

地域住民 (婦人会、老人会等)

地域行政 (保健所)

地域関係団体 (医師会等)

関係施設 (地域包括支援センター等)



期待される地域の薬局の役割と 薬剤師職能の活用

・ 社会保障制度改革への貢献

医療費適正化事業、地域医療連携、地域包括ケアシステム、在宅医療・介護応需体制、24時間、365日処方箋等応需体制（すべての医薬品供給、医療用麻薬、無菌製剤など）
医薬品適正使用、医薬品副作用等早期発見、多職種連携

・ 国民の健康づくりへの貢献

疾病予防、疾病の早期発見、重症化予防、健康寿命の延伸、健康づくり・管理、多職種連携、健康情報の発信、医薬品情報・相談、薬乱防止、セルフメディケーション推進、医薬品の副作用有害事象発見環境・衛生への支援、育薬、おくすり教育など

 日本薬剤師会

薬局の健康支援機能に対する 社会からの期待

○日本再興戦略

「薬局を地域に密着した健康情報の拠点として、一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を行う等、セルフメディケーションの推進のために薬局・薬剤師の活用を促進する。」と記載された。

○健康日本21(第二次)

「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針」
(根拠法:健康増進法)

「健康を支え、守るための社会環境の整備」のため、「地域住民が身近で気軽に専門的な支援・相談が受けられる民間団体の活動拠点数の増加」が目標として掲げられ、その活動拠点の例として「地域住民の健康支援・相談対応等を行い、その旨を積極的に地域住民に周知している薬局」が記載された。

 日本薬剤師会

地域薬局の変遷 ①

昭和50年代初頭までの薬局＝健康づくり支援の役割
一般用医薬品・健康食品供給等を主として
地域住民の健康づくりファーストアクセスの場として活用

- 「背景」* 日本経済高度成長期
- * 医療機関・専門医が少ない時代
 - * 国民皆保険を経験していない方々の存在
 - * 自分で健康の維持や自己治療を行っていた時代
(セルフメディケーションの意識が高い時代)
 - * 核家族の少ない時代
 - * 情報化が進んでいない状況(IT, マスメディアなど)
 - * 供給側が優位的な一方的な情報提供や医薬品選択

 日本薬剤師会

地域薬局の変遷 ②

昭和50年4月30日 薬事法薬局距離制限違法事件
(最高裁・法令違憲判決)

～昭和50年代中頃からの変化～

ドラッグストアの誕生(乱立、乱売の始まり)

大店舗法 ↓ 米国型店舗

規制緩和の大きな流れ(医薬品を医薬部外品に)



郊外型大型店舗、繁華街へのドラッグストア増加



薬剤師等専門家を介さない販売の増加
地域小規模薬局への一般薬購入来店客数の減少

 日本薬剤師会

地域薬局の変遷 ③

～平成初期頃から～ (医薬分業の急速な推進)

小規模薬局は調剤業務を中心にシフト



調剤専門薬局の増加

処方箋調剤 小規模薬局のOTC医薬品取扱いは縮小
(医療用医薬品の在庫数増加)



薬局処方箋枚数毎月300枚以上の

店舗の調剤売上:一般薬等販売比率 96%:4%

(国民のイメージの2極化)

一般の薬局は調剤専門薬局

ドラッグストアはOTC薬の供給場所

薬局・薬剤師による健康づくり・健康相談の業務・職能の低下

日本薬剤師会

地域薬局の変遷 ④

～さらなる規制緩和時代に～

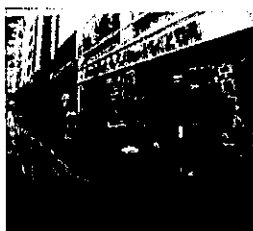
～平成21年度薬事法改正 薬剤師以外の専門家の誕生～

登録販売者の誕生! 薬局・薬剤師の存在感が..

(店舗) ドラッグストア・コンビニ・薬局・その他

(対面以外の販売経路) インターネット販売等

※ドラッグストアのM&A, 大型保険薬局チェーン化の進展



日本薬剤師会

●日本再興戦略（6月14日 閣議決定）【抜粋】
 ○予防・健康管理の推進に関する新たな仕組みづくり
 「薬局を地域に密着した健康情報の拠点として、一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を行う等、セルフメディケーションの推進のために薬局・薬剤師の活用を促進する。」

薬局の現状の問題点

- 一般用医薬品を取り扱わない薬局が多岐
- 薬局の業務も処方箋に基づく調剤業務が殆ど
- 地域の健康づくりの拠点になるような取組が不十分
- 医療分業についての十分な理解が得られていない

健康情報の拠点薬局



- 【健康情報拠点薬局となるため、処方せん応答のほか】
- ①すべての医薬品供給拠点
 - ②住民の健康づくり支援・相談機能
 - ③住民からの健康チェック検査の受渡・対応
 - ④多職種との連携
 - ⑤在宅医療の取り組み

拠点薬局モデル事業の実施

- <拠点薬局としての充実・強化>
- セルフメディケーション推進のための実施計画策定【必須】
 - 一般用医薬品等の適正使用に関する健康相談窓口の設置や普及啓発【必須】
 - ←一般用医薬品等の適正使用に関する相談窓口の設置や適正使用に関する啓発資料の作成・配布
 - ◇セルフメディケーション推進のためのセミナー開催等【以下のメニューから適宜選択】
 - ←食生活（健康食品含む）、昇降、心の健康、高齢者（介護）、アルコール、在宅医療
 - ◇健康チェックの支援・対応【選択】
 - ←健康チェックを行う体制（血圧計などの検査機器を設置し、消費者が継続的に薬局を訪問し利用することで、相談窓口やセミナーを活用するなど、セルフメディケーションの意識付けを図る）

事業が目指すもの

- 薬局としての責務を果たし、地域の医療・保健に貢献する（⇒社会に見せていく）
- 薬剤師の職能を最大限に発揮する薬局として薬局の姿を変えていく（薬局の多様な機能の充実）

事業で行うべきこと

- 薬局の機能の充実・強化
- 地域の保健・医療体制、地域社会との連動



薬局サービスの充実だけでなく、
システムとして機能していくことを目指す

- 薬局が地域の医療・保健に貢献していることの実証(結果を出す)

この予算だから、事業だからではなく、
今、薬局がやらなければいけないこと。

○薬局の機能の充実・強化
⇒どうすれば？

○地域の保健・医療体制、地域社会との連動
⇒どうすれば？

○薬局が地域の医療・保健に貢献していることの実証
⇒どうすれば？

どんなアウトカムがあるか？どんな評価方法があるか？

地域の実情に応じた事業内容、実証方法の検討・工夫
が必要